

ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実
(ICTを活用した職業教育に関する指導計画・指導法の開発)

成果報告書

受託団体名
長崎県

1. 事業の実績

(1) 事業の目的・目標

事業の目的
障害のある生徒がICTを活用して就労するために、必要となる指導内容や方法を開発して新たな技能や態度を生徒に身に付けさせることにより、生徒の進路選択の幅を広げ、特別支援学校における進路指導及びキャリア教育の充実を推進する。
事業の目標
ICT関連企業の求人開拓や在宅勤務に必要な技能等の整理を行う「ICTキャリア教育コーディネーター」を配置し、ICT関連の職場実習の受け入れ先を広げ、生徒が就労を希望するときの選択肢を増やす。 また、「ICT活用キャリア教育開発協議会」に視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の各障害種の特別支援学校から参加するとともに、ICT関連企業からアドバイザーを招聘し、新しい職域や業種の開拓、ICTを活用した就労のために必要な指導内容等について協議を行うことで、多くの離島を有する本県特別支援学校のキャリア教育の充実につなげる。

(2) 研究協力機関・校の一覧

(ふりがな) 学校名	障害種	具体的な役割
ながさきけんりついさはやくべつし えんがっこう 長崎県立諫早特別支援学校 (研究協力校)	肢体不自由	○教育課程内の範囲において、生徒がイラストレーター、CADの活用方法や基本操作を習得するための指導方法や教材を整理し、実施する。また実践するために必要な要件を整理する。 ○ICT関連企業と連携協議会を実施し、ICT関連企業での就労を実現するために必要な力と学校における取組の関連について情報交換を行う。 ○ICT関連企業で現場実習を実施する。 ○ICT関連企業に関する就労先・実習先一覧を作成する。

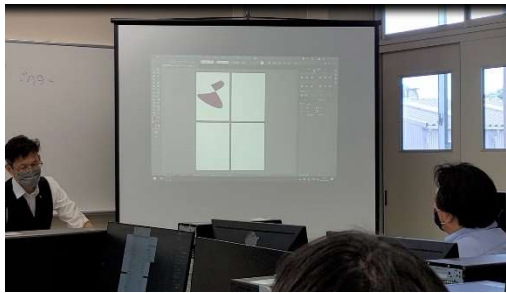
<p>ながさきけんりつ きせ ぼとくべつしえんがっこう 長崎県立佐世保特別支援学校</p> <p>(実践協力校)</p>	<p>肢体不自由</p>	<p>○教育課程内の範囲において、生徒がイラストレーター、CADの活用方法や基本操作を習得するための指導方法や教材を整理し、実践する。</p>
<p>ながさきけんりつ きくらがおか とくべつしえんがっこう 長崎県立桜が丘特別支援学校</p> <p>(実践協力校)</p>	<p>病弱・肢体不自由</p>	<p>○教育課程内の範囲において、生徒がイラストレーター、CADの活用方法や基本操作を習得するための指導方法や教材を整理し、実践する。</p>

(3) 取組内容

- 長崎県では、特別支援学校高等部生徒のICT関連企業での実習、就労の実績はないが、今後はICTを活用したテレワークや在宅勤務など、新たな働き方の実現により進路の選択肢が広がることが予想される。昨年度に引き続き、ICTキャリア教育コーディネーターを配置して、ICTを活用する現場実習先の事業所の開拓、ICT活用に必要な知識や技能についてヒアリングを実施した。
- 昨年度実施したICT関連企業からのヒアリングにおいて、就労につながるICTスキルとして、「デザイン」、「プログラミング」を挙げる企業が多く、具体的には、「イラストレーター」や「CAD」などのソフト名が挙がった。研究協力校1校、実践協力校2校において、イラストレーター、CADの基本操作習得のための外部講師による職員研修を実施した。
- 研究協力校の生徒を対象に、ICT関連企業による出前授業（イラストレーター、CADの基本操作）を実施し、その出前授業を実践協力校の教員も見学した。
- 研究協力校1校、実践協力校2校において、教育課程の範囲で、生徒がイラストレーター、CADの活用や基本操作を習得するための指導方法や教材について研究・実践した。美術、情報の授業においてイラストレーターを、家庭の授業においてCADを活用した。
- 研究協力校において、ICT関連企業5社で現場実習を実施した。
- 企業と研究協力校の連携協議会（企業8社が参加）を2回開催し、ICTを活用した現場実習が可能な業務内容や授業でのICTの活用等について、情報交換したり、助言をもらったりした。
- ICT活用キャリア教育開発協議会（高等部を設置する県内すべての特別支援学校、ICT関連企業）を実施して、事業の取組を共有した。
- 研究協力校の実践を「特別支援学校就労支援フォーラム（県内企業50社が参加）」で発表した。
- また、研究協力校において、イラストレーター、CAD、その他のICT活用に必要な知識や技能と教科等との関連表、単元配列表、「ICT関連企業に関する就労先・実習先一覧」を作成した。

(4) 成果

○イラストレーター、CADの基本操作習得のための外部講師による職員研修を研究協力校で5回、実践協力校で2回実施した。

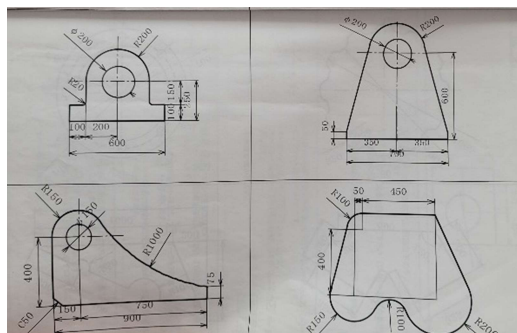
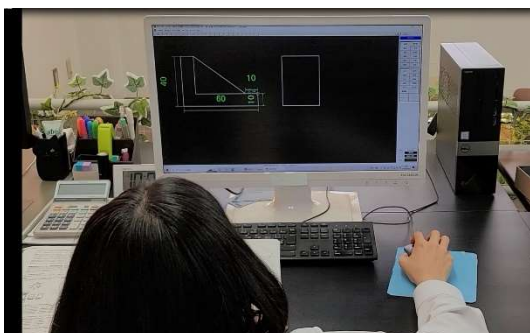


○研究・実践協力校で、美術の授業でポスター製作を行う際にイラストレーターを、家庭の授業で間取りを作図する際にCADを使用、情報の授業で、画像をデジタル化する際にイラストレーターを使用した。



○授業後のアンケートでは、イラストレーターについて、75%の生徒が「これからも学びたい」、CADについては100%の生徒が「これからも学びたい」と回答した。

○授業後には、生徒がCADを使用する職種での現場実習を希望し、住宅設計を行う事業所でCADオペレート実習を行った。また、イラストレーターを活用したデザインを専門的に学ぶための大学への進学が実現した。



- 教育課程の範囲において、生徒がイラストレーター、CADなどのプロツールに興味関心をもちながら、基本操作を習得できることが分かった。
- 研究協力校において、ICT活用に必要な知識や技能と教科等との関連表、単元配列表を作成することによって、各教科等のどの単元においてICT活用に必要な知識や技能についての指導が可能かを明らかにすることができた。
- すべての教員が授業で活用するためには、もっと職員研修が必要という意見があった。操作や活用についてマニュアルやデータベースを作成する必要がある。
- 業務の一部または全部においてICTを活用する事業所を開拓し、職種別に整理することによって、生徒が希望する実習・就労先とのマッチングの精度が上がった。
- 企業と学校との連携協議会やフォーラムを通して、特別支援学校におけるICTを活用した職業教育に関する指導計画・指導法に関する取組を広く周知するとともに、持続的な連携体制を構築することができた。

(5) 課題と対応方策

就労につながるICTスキルとして、イラストレーター、CADの2つのソフトについて、生徒に興味関心をもち、活用に必要な知識や技能の習得を目指す取組を行った。教育課程の範囲において、生徒がイラストレーター、CADに興味関心をもちながら、基本操作を習得できることを明らかにすることができた。しかし、イラストレーター、CADを教師が授業で活用できる程度のスキルを身に付けるためには、研修等を受講する必要がある、研修に係る予算や時間の確保が課題となった。

就労につながるICTスキルは今後も変化していくことが想定される。就労につながるICTスキルについて、その都度活用するためのスキルを身に付けることよりも、生徒に興味関心をもちさせることが重要であることがICT企業等の連携協議会で明らかになった。ICTスキル活用に必要な知識や技能の習得を目指す取組は最小限とし、生徒に興味関心をもちさせるような取組を教育課程の範囲で実施していくことが望ましいと考えられる。

今後は、就労につながるICTスキルについて情報収集を継続するとともに、生徒がそれらを知り、興味関心をもちよう取組を教育課程の範囲で実施し、それらの取組をデータベース化し、広く共有していく。

また、生徒が就労につながるICTスキルについて学ぼうする意欲を高めるきっかけとなるような、ICTスキルに関する技能検定を開発したい。